

記録書 No.5

(2014 年 05 月 29 日 ~ 2014 年 06 月 13 日)

2014 年 06 月 16 日
乃村研究室 B4
藤田 将輝

0. 前回ミーティングからの指導・指摘事項

- (1) 幹事をするときは、関係者全員と情報を共有する。

[5/29, 乃村研ミーティング, 乃村先生]

1. 実績

1.1 研究関連

- (1) 研究テーマに関する項目

(A) IPI 送受信の確認 (100 % , +20 %)
(B) 参考文献の読解 (40 % , +20 %)

- (2) 開発に関する項目

(A) 自動ビルドスクリプトの作成 (90 % , + %)

- (3) 第 252 回 New 打ち合わせ (06/06)

- (4) 第 5 回 New グループ開発打ち合わせ (06/11)

1.2 研究室関連

- (1) 乃村研ミーティング (05/29)

- (2) もくもく会 (06/11)

1.3 大学・大学院関連

- (1) 情報化における職業 (05/30)

- (2) カレッジ TOEIC (05/31)

2. 詳細および反省・感想

2.1 研究関連

- (1B) 山本さんの特別研究報告の参考文献の 1 つである「SMP を活用した Primary/Backup モデルによるリプレイ環境の構築」[1] を読解した。仮想マシンモニタを用いた Primary/Backup モデルによる OS のデバッグ方法を理解で

きた．Primary/Backup モデルとは2つの OS をそれぞれ Primary と Backup に割り当て，これらを時間差を設けて同じ処理を実行することにより，Backup が Primary の動作の再現をするモデルである．Primary と Backup を同一の状態にするために割り込みタイミングや，処理の実行結果を Primary から Backup に通知する仕組みが参考になった．参考文献はあと3つある．今後，自分の研究に活かせる部分はないかを意識して，論文を読解する．

- (2A) コードに変更があったカーネルをビルドし，再起動した際にビルドしたカーネルを選択して起動し，起動に失敗すれば，もとのカーネルにロールバックするスクリプトを作成している．再起動するまでは成功したが，失敗した場合のロールバック機能が実装できていない．グラブの機能に fallback という機能があるため，これを使って実装する．

2.2 研究室関連

- (2) もくもく会に参加した．もくもく会とは参加者が集まって黙々と各自の作業をする会である．私は論文の読解をした．いつもとは違う環境であったため，新鮮な感覚で作業ができた．

3. 今後の予定

3.1 研究関連

- (1) 研究テーマに関する項目
 - (A) 参考文献の読解 (06/30)
- (2) 開発に関する項目
 - (A) 自動ビルドスクリプトの作成 (06/27)
- (3) 第 253 回 New 打ち合わせ (06/18)
- (4) 第 6 回 New グループ開発打ち合わせ (06/27)

3.2 研究室関連

- (1) 平成 26 年度 M2 論文紹介 (06/20)
- (2) 乃村研ミーティング (06/26)

4. 参考文献

- [1] 川崎仁，追川修一：SMP を利用した Primary/Backup モデルによるリプレイ環境の構築，情報処理学会研究報告，Vol.2010-OS-113，No.12，pp.1-8(2010)．